



教職員向け LGBTQ+学生への 配慮・対応ガイド

日本体育大学
D&I推進委員会

2026年7月

01 はじめに

日本体育大学では、2022年4月ダイバーシティ＆インクルージョン(D&I)推進宣言を行い、人種、肌の色、ジェンダー、性的指向、性自認、障がいの有無や種類、出自、言語、文化、宗教など、個々が持つ多様性を真に受容し、尊重される環境の実現に向けて取り組むことを確認しました。

このたび、その取り組みの一環として、個人の多様な性的指向や性自認を理由とする偏見やハラスメントが生じることのないよう、「教職員向けLGBTQ+学生への配慮・対応ガイド」を作成しました。

本学では、すべての学生が自分らしく、互いを尊重し合いながら、学内のあらゆる場所・場面において、平等にスポーツや教育・研究活動の機会が得て、個々の能力を十分に発揮できるキャンパスの実現を目指しています。

性的指向・性自認や性別の表現等を含む、多様な背景を持つ学生一人ひとりが、不安を抱くことなく安心して充実した大学生活を送ることができるよう、本ガイドが教職員の皆様にとって参考となることを願っています。

2026年7月
日本体育大学
ダイバーシティ＆インクルージョン推進委員会

【日本体育大学ダイバーシティ＆インクルージョン(D&I)推進宣言】

2022年4月1日

1. D&I を推進し、配慮を必要とする本学全構成員に対する相談・支援体制を整備します。
2. D&I の視点に立った環境及び組織作り、人材育成を推進します。
3. D&I 推進に関する意識を啓発し、大学の意思決定において多様な構成員の意見が反映されるよう努めます。

【D&I 推進宣言の趣旨】



02 配慮・対応の基本/具体的な対応

【配慮・対応の基本】

- ◆多様な性のあり方を前提とした言動を心がける。
- ◆呼称・表現は本人の意思を尊重し、性別を前提としない。
- ◆教育活動において性別による不必要な区分や役割固定を行わない。
- ◆各種手続きや様式において多様性に配慮し、選択の自由を確保する。
- ◆相談や配慮の要望には、守秘と対話を重視して対応する。
- ◆宗教上の理由で、性に関する対応に配慮が求められる場合があることに留意する。

【具体的な配慮・対応】

① 学生への接し方・言動

- ・当事者がいることを前提に、存在を否定する発言をしない。
- ・差別的・侮辱的表現や性のステレオタイプを用いず、学生にも注意喚起する。

② 授業や窓口等における呼称

- ・敬称や人称は性別を前提とせず、本人の希望を尊重する。もしくは共通の敬称(「～さん」等)を用いる。
- ・その「男性」あるいは「女性」といった性別決めつけの呼び方を避ける。

③ グループ分け・役割分担

- ・性別による不必要なグループ分けを行わない。
- ・性別以外の属性(誕生月や席順等)による番号の割り当てでも、グループをつくることは可能である。
- ・性別に基づく役割固定や慣例に注意する(特定の役割に特定の性別の学生を選ぶなど)。

④ アンケート等の性別欄

- ・性別は二択にせず、「回答しない」や自由記述を設ける。
- ・性別を尋ねる目的を説明し、記入を強制しない。

⑤ 実習や宿泊を伴う活動(ゼミ合宿なども含む)

- ・トイレや部屋割り等について、事前に希望を伝えられる機会を設ける。
- ・申し出があった場合は、本人と相談し可能な範囲で対応する。

⑥ 学生から相談されたとき・カミングアウトされたとき

- ・まずは傾聴し、困りごとや希望を確認する。
- ・情報共有は本人の承諾を得たうえで行う。

★学生から相談を受けたら・・・

- ・学生に寄り添う気持ちを示す
 - ・何に困っているのか等を確認する
 - ・情報共有の範囲について本人に確認する
- *アウティングに注意！！**

03 体育大学の教育・指導現場でセクシュアルマイノリティを理解するための用語集 (精選版)

1. LGBTQ+

LGBTQ+とは、「レズビアン」「ゲイ」「バイセクシュアル」「トランスジェンダー」「クィア／クエスチョニング」の頭文字を取った総称です。さらに「+」を加えることで、LGBTQのいずれにも当てはまらない多様な性を表現しています。

本学においても、LGBTQ+の学生は、例外的で特別な存在というわけではありません。競技種目、チーム、学年を問わず在籍している可能性があり、指導者や教職員は「いない前提」で関わらないことが重要です。一括りにせず、個々の背景や状況の違いを意識した対応が求められます。

2. セクシュアルマイノリティ

セクシュアルマイノリティとは、性的指向や性自認、身体的性のあり方が社会の多数派と異なる人々を指します。外見や競技パフォーマンス、言動から判断することはできません。

本学では、部活動や実技授業など、個人の身体や感性などがいわば「むき出し」となる状況も多く、無意識の前提(男女別、更衣の当然視など)が学生に負担となる場合があります。多様な学生がいることを前提に環境を整える視点が重要です。

3. SOGIE(ソジー)

SOGIEとは、「性的指向(Sexual Orientation)」と「性自認(Gender Identity)」、さらに「性表現(Gender Expression)」を表す言葉です。SOGIEはセクシュアルマイノリティだけでなく、すべての学生・教職員に関わる概念です。チーム編成、名簿管理、呼称、指導時の声かけなどにおいて、特定の性を前提にしない視点を持つことで、不必要な排除や違和感を減らすことができます。

4. 性的指向(Sexual Orientation)

性的指向とは、恋愛感情や性的関心がどの性別に向くか、あるいは向かないかを示す概念です。本人の意思や努力で変えられるものではありません。本学においては、日常の学生生活だけでなく、合宿や遠征、チーム内の雑談などで、異性愛を前提とした発言が無自覚に行われがちです。恋愛や私生活について踏み込んだ質問をしない配慮は、指導者・教職員に求められる基本姿勢の一つです。

5. 性自認(Gender Identity)

性自認とは、自分自身をどの性別として認識しているか、あるいは性別を持たないと感じているかという内面的な性のあり方です。本学では、更衣室・トイレ・ユニフォーム・計測や検診時の区分などで困難が生じやすく、制度や慣習が学生の参加を妨げる要因になることがあります。本人の申告を尊重し、個別に相談できる体制を整えることが重要です。

6. アライ(Ally)

アライとは、セクシュアルマイノリティ当事者を理解し、差別や不利益を減らすために行動する支援者のことです。一概に言えませんが、スポーツの現場では、指導者や上級生の影響力が大きいため、アライの姿勢が示されることで、チーム全体の雰囲気が変わります。からかいや不適切な発言を見過ごさず、「それはよくない」と止める行動が、チーム構成員全体の安心感につながります。

7. アウティング(Outing)

アウティングとは、本人の同意なく、性的指向や性自認を第三者に伝える行為を指します。アウティングは、部活内の噂話や指導者間の情報共有、合宿中の何気ない会話から起こることがあります。意図の有無にかかわらず、本人の競技継続や人間関係、さらには人生そのものに深刻な影響を与える可能性があります。「本人の許可なく話さない」という原則を、教職員・学生双方で共有することは非常に重要です。



04 相談窓口

1. 学内の相談窓口

学生だけでなく、性的指向、性自認に関連した学生とのかかわりで困った場合、教職員が相談できる窓口は以下のとおりです。

管理部庶務課

2. 学外の相談窓口

東京都および神奈川県の記事や支援団体などが設置している相談窓口があります。当事者本人だけでなく、性的指向や性自認に関連した様々な悩みについて、広く専門の相談員が相談を受けています。

◆東京都

「Tokyo LGBT相談 専門電話相談」

☎03-6742-3471

受付時間 火曜日・金曜日 18時～22時(祝日・年末年始除く)



「Tokyo LGBT相談 専門LINE相談」

受付時間 月曜日・水曜日・木曜日 17時～22時(祝日・年末年始除く。)

※受付は21時30分まで

<https://www.support-navi.metro.tokyo.lg.jp/detail/1/z9p46Xc3VCH9hwwsj>



◆神奈川県

「かながわ性的マイノリティ相談LINE」

受付時間 毎週 月曜日及び土曜日 14時～21時(祝休日・年末年始除く)

LINEアプリのホーム画面の検索で、ID「@kanagawa-LGBTQ」を検索



3. 通称名使用について

性別違和のある学生の学籍上の氏名について、通称名の使用を申請することができます。相談・申請先は以下のとおりです。

学務部学生センター事務室

05 おわりに

本ガイドは、すべての場面に共通する対応方法を示すものではありません。学生一人ひとりの状況や意向はさまざまであり、対応に迷う場面もあるかもしれません。そのような際には、本人の意思を尊重しながら、必要に応じて関係部署と連携して対応することが大切です。

本ガイドが、教職員の皆様の日々の学生支援における参考となれば幸いです。